

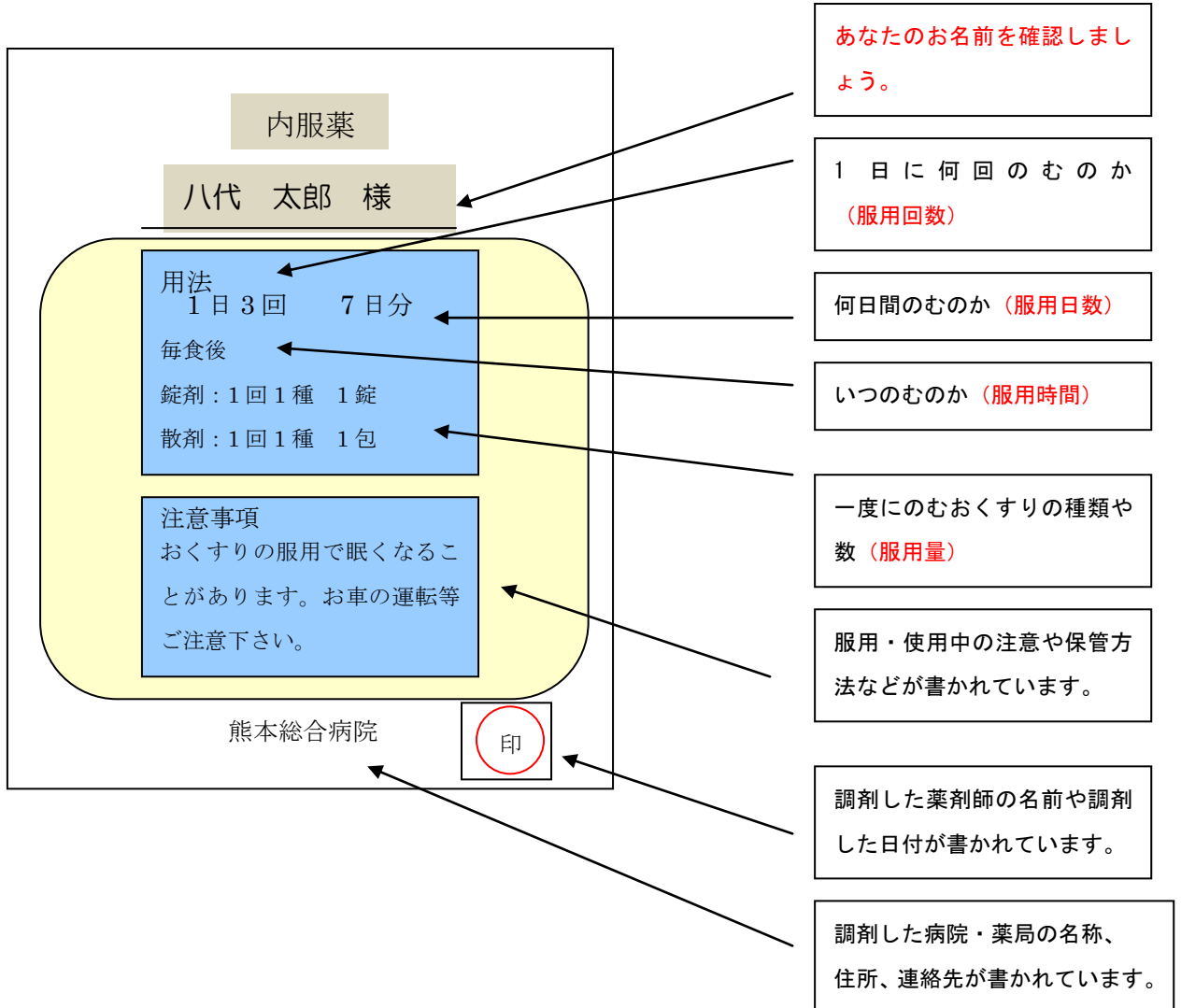
おくすりの正しい飲み方



お薬の効果をも十分に安全に発揮するためには、指示された量、回数、時間を守り、正しく服用する必要があります。

おくすりの袋（薬袋）には、正しくのんでいただくためのいろいろな注意事項が書かれています。

病院、薬局でおくすりを受け取った時には必ず確認しましょう。



◆ 服用時間について

主なのみ方は次の通りです。

- 食前・・・・・・・・・・食事の約30分前
- 食後・・・・・・・・・・食事の後30分以内
- 食間・・・・・・・・・・食事と食事との間（食後2時間くらいを目安）
- 食直前・・・・・・・・・・食事をはじめるとき（食事10分前位までの間）
- 食直後・・・・・・・・・・食事の最後（食後10分位までの間）
- 寝る前・・・・・・・・・・寝る直前または30～60分前
- 頓服（とんぷく）・・指示された症状がでたとき（発熱時や頭痛時など）

◆ のみ忘れたとき

基本的な対応としては、次の服用時間までに十分に時間があいていれば、気付いた時点でのんでください。

次の服用時間が迫っているときは、1回分とばして、次回から指示どおりにのんでください。一度に2回分をのんではいけません。お薬の副作用が出る可能性があります。

また、糖尿病の薬や抗がん剤など、対応が異なるお薬もあります。ご不明の点は医師や薬剤師におたずね下さい。

◆ お薬は水で飲みましょう

原則として、コップ1杯程度（約150mL）の水、またはぬるま湯でのみしましょう。水以外のもの飲むと、お薬の効果に影響が出るものもあります。

しかし、心臓の発作を改善するくすり（ニトログリセリン）は「舌下」といい吸収を早めるために、飲み込まずに舌の下で溶かして使用します。また、最近の水なしで服用できるくすりもあります。

◆ 自分で勝手に薬を中止したり量を変えたりしないでください

自分では治ったと思っても、まだ治っていないことがあります。

急にお薬を中断すると、症状が悪化することもあります。

自分で勝手に薬を中止したり、量を減らしたりせず、必ず医師や薬剤師に相談しましょう。

◆ 自分のお薬を他の人にあげたり、他の人のお薬をもらってのまないでください

病院で処方されたお薬は、処方された患者さんご自身のものです。

医師は患者さんの症状や体質を診断した上で、お薬を処方しています。

「症状が似ているから」「よく効いたから」といって、ご家族や友人に渡すことはやめてください。

効果が出ないばかりか、思わぬ副作用が出る場合があります。

◆ お薬は正しく保管しましょう

保管はおくすりをもらった時の指示に従って下さい。

お薬は一般的に「光」と「湿度」に弱いものがあります。

特に指示がないものは、直射日光のあたらない、涼しい乾燥したところに保管しましょう。

冷蔵庫で保管が必要なお薬もあります。しかし、凍らせてしまうと効果が悪くなったり、使用できなくなるものもあります。

また、夏場の車内は予想以上に高温になりお薬が変質したり、坐薬が溶けたりすることがあります。車の中にお薬を放置しないように注意して下さい。

お薬は、患者さまにとって、健康と命を支えている大切なものです。

ご自分のお薬のことをよく知っておきましょう。

お薬についてわからないことがありましたら、医師や薬剤師にご相談下さい。

◆ 違う診療科や違う病院でもらったくすりを一緒にのんでもいいですか？

違う診療科や病院からのくすりをのむ際は医師や薬剤師にご相談下さい。

また、2つ以上の診療科や病院に受診するときは、必ずその旨を医師に伝えて下さい。

医師が他の診療科や病院から処方されるくすりを知らないと、同じ成分や同じ効果をもつくすり処方されることがあります。

また、飲み合わせが悪いくすりが処方された場合、作用が強くなったり弱くなったりして期待される効果がえられない場合があります。